

役割分担こぼれ話 (1) = 学生実験編 =

高部英明

学生時代、学生実験が大嫌い。実験は人にまかせて、データもレポート提出前に大学の図書館の自習室のガラスごしに竹内君（共同実験者）のをコピーして提出したものでした。それが今や、学生を指導する立場になるわけですから・・・・・・。

3年間に亘り、レーザー、光電分光、放電プラズマの実験を担当しました。僕の学生時代（十数年前ですが）にも同じ実験があり、違いはでゾーンプレートの実験が加わったこと、がケイ光燈の代わりに放電管を使つての同期測定になっていた程度でなつかしい思いで担当しました。

学生実験を担当するいい点は、

1. 学部学生と接し、個々の学生のキャラクターをかい間、感じ取れること。無気力、真面目、色んな学生がいますが比較的皆、真面目に実験をし、レポートを書いているので感心します。
2. 電気系の建物に週一回入るわけで「自分は大学に勤めているのだな」という気分を確認できること。
3. 「実験というのは、大変なんだろうな」という感想を持ったこと（理論も大変ですけどね）。

時々、非常に熱心な学生がいて感心します。今学期の放電プラズマ実験では、テキストに「プラズマ径4cm」と書いてあるのに、実験データからはどうしても8cmのはずだとやってくる学生がいて、よく聞いてみますと、その通り。又、テキストを予習してきて、印刷ミス指摘されたりもしました。正直に「すまん」と学生には言うようにしています。